



幼児文化芸術協会新聞

2026年 7月吉日 第39号

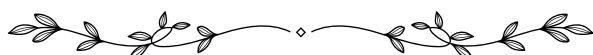
心を踊らせる

栄光八事幼稚園 (天白区)
 小幡あさひ幼稚園 (守山区)
 志だみ幼稚園 (守山区)
 東郷旭丘幼稚園 (東郷町)
 とみよし幼稚園 (愛西市)
 名古屋西幼稚園 (西区)
 鳴海ヶ丘幼稚園 (緑区)
 日進旭幼稚園 (日進市)
 美里幼稚園 (豊田市)
 ※50音順

私は、学生時代から10年間ボールルームダンス(社交ダンス)の競技を行っていました。ワルツ、タンゴからルンバ、サンバまで10種目の大会に出場し、最終的にはプロダンス教師となりました。カップルでベーシックステップから振付のバリエーションを練習していくと、文字通り心が踊ります。そこには様々な国のリズム、表現、衣装があるからです。文化芸術とは、世界の国々が伝承してきた暮らしの土台である「文化」を、独自の表現として創造された「芸術」として鑑賞体験する活動です。

本財団では、各園で一流の講師を招き、世界の文化にふれ、観る聴くだけでなく、五感を使って体験するプログラムを実施しています。また教職員対象に、文化芸術への感性を高める研修会や鑑賞会を行っています。そして今年度も3月には、全会員園が愛・地球博 Mori Kokoro Park 会場に総勢1,000名以上集まり、「幼児文化芸術祭」で希望の歌(交響曲第9番の編曲)を合唱し、親子舞踏会でワルツを踊ります。お子さまの成長と、いのち輝く表現、ご家族の感動の思い出となります。ぜひご参加ください。子どもたちが「きれいだな」「楽しいな」「素敵だな」と感じることで、文化芸術への第一歩です。さらに表現すること、創造することで、心踊らせる一年の体験活動が、自己肯定感を育て心豊かな人間となることを願っています。

(一財) 幼児文化芸術協会 会長 岡田勝彦(栄光八事幼稚園、鳴海ヶ丘幼稚園 園長)

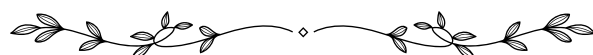


「お腹でおどろう」 栄光八事幼稚園

今年度初めての文化芸術体験は、「ベリーダンス～おなかで踊ろう～」でした。ホールに集まった子どもたちの前に現れたのは、美しく舞う蝶々のようなドーサ先生。華麗なダンスが始まると、子どもたちは、その姿に目を輝かせながら見入っていました。「キレイ！」という声も聞こえ、ホールは、わくわくした雰囲気になりました。

ダンス鑑賞の後は、体験の時間です。身体をやわらかく使いながら、お腹を前後に動かしたり、腰を左右に動かしたりと、普段あまり経験しない動きに挑戦しました。ベリーダンスは、お腹や腰を動かすのが特徴で、「ベリー」は「お腹」という意味であることも教えてもらいました。初めての動きに戸惑う子もいましたが、ドーサ先生のダンスを見ながら、一生懸命真似をしようとする姿はとても真剣でした。

また、「ベリーダンスはどこの国の踊りでしょう？」という問いかけに、子どもたちは世界地図を見ながら必死に考えていました。答えは、エジプトなどの中東の国々で生まれた踊りだそうです。年中組は、親子で体験し、保護者の方も子どもたちも異文化に触れながら、楽しく身体を動かす貴重なひとときになりました。

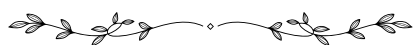


「ヨガ体験」 とみよし幼稚園

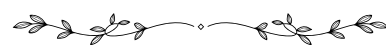
今年度最初の「文化芸術体験」は『ヨガ』でした。当日、裸足になってホールへ入ってきた子どもたちの表情は、「何が始まるのだろうか？」と少々不思議そうに見えました。しかし、講師の先生がにこやかな表情でユーモアを交えて挨拶をしてくださいますと、子どもたちはもちろんですが、教師も一瞬で笑顔になりました。

まずは、ネコやライオン、ゾウなどの『動物になろう』ということで、四つん這いになって、思い思いに歩きました。子どもたちは、どうしても早く歩こう(動こう)としますと、身体の動かし方を意識させるようにゆっくりと動くようにと指示がありました。それに対する反応ですが、年少児は四つん這いになることそのものを面白がっていました。当然のことながら、ゆっくりと動くことを意識している子の割合は、学年が上がるほど多くなるのは納得です。

個人差が大きかったのは、足の指で新聞紙を手繰り寄せる動きでした。年少児でも簡単にできる子いれば、足の指を曲げることが精一杯で、なかなか手繰り寄せられない年長児もありました。中には、手を伸ばして、手足の指を総動員して手繰り寄せている子が何人かあり、その姿がとても微笑ましく、大人も子どもも楽しいひと時を過ごすことができました。



「パーカッション体験」 小幡あさひ幼稚園



6月にパーカッションの体験を行いました。講師は独創的な演奏技術を駆使して日本国内のみならず海外でも活躍している三沢 信(みねさわ のぶ)先生です。

まずは色々な楽器を紹介していただきました。パーカッションといえば打楽器類一般を想像されると思いますが、広義に捉えるとカエルの鳴き声のような音を出すもの、雨音を表現するものなど、テレビ番組などでお馴染みの効果音を出すものもたくさんあり、子どもたちは「あつ！聞いたことあるつ！」などと興味津々でした。

そして次は音出し体験です。子どもたちはそれぞれのコーナーに分かれ、交代しながら様々な楽器を楽しみました。輝かしい音や不思議な音など、まるで音のデパートのようにたくさんのサウンドで室内が満たされ、とても賑やかで楽しいひとときでした。

最後は日本のロックバンド「ザ・ブーム」の「風になりたい」のピアノ演奏と信先生の効果的なパーカッションサウンドが流れ、「さあみんな風になろう！」との呼びかけに、子どもたちは風になったつもりで楽しく踊ってフィナーレを迎えました。

